

巻頭スペシャル・インタビュー

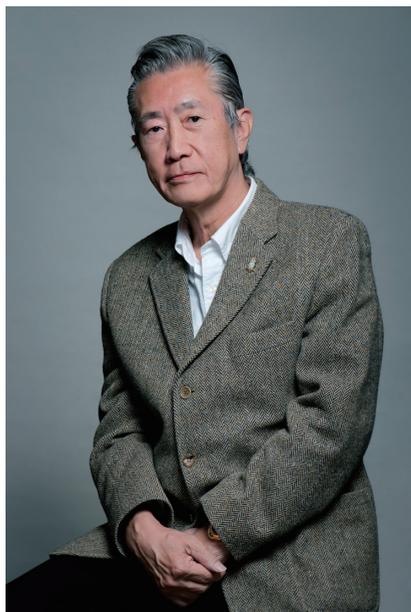
伝説の音楽人、石坂敬一

ビートルズを日本に根付かせ、“プログレッシヴ・ロック”の命名者でもあり、名立たるトップ・アーティストを育て上げ、日本ポリグラム～ユニバーサルミュージックで数々の実績を残し、ユニバーサルミュージックをレコード業界トップに躍進させ、日本レコード協会会長まで務め上げた石坂敬一さん。

2011年に発行された石坂さんの著書『出世の流儀－究極のビジネスマンになる方法』は本誌編集長の愛読書。直接お会いできるとは夢にも思っていなかった伝説の音楽人、石坂敬一さんにビートルズからジャズまで貴重な話を聞かせて頂きました。

オシャレでダンディでオーラ全開の石坂さん、とても素敵でした。

【2016年5月都内某所にて 取材・文：加瀬正之】



写真提供：ワーナーミュージック・ジャパン

♪ 今年はビートルズ来日50周年にあたりますが、ビートルズについて今改めて思うことはありますか？

ビートルズは9年間存在して、消えちゃったわけですね。正確に言えば活動期間は8年ちょっとですけど、だから50年経っても100年経っても存在した9年間というのは非常に短い。だからビートルズの213曲をじっくり聴きたいですね。ビートルズは今の私にとっては自分の余生を彩る楽しみかな。

♪ 石坂さんにとってビートルズとの出会いが音楽業界での始まりだと思いますが、石坂さんの中でビートルズを超えるような存在になり得るアーティストはいますか？

残念ながら、いないですね。ビートルズにはその時代があったので。どういう時代かというアメリカのオールド・ロックンロール全盛時代を経て、1950年代の後半という時代があって、その真ん中の流れが消えちゃって、サーフィンとかビーチ・ボーイズ、あるいは、ベンチャーズなどのインストゥルメンタルのバンドが多かったですね。あと、バラードですね。ポビー・ウィントンとかジョニー・マティスなどのバラード。それから「ヘイ・ポーラ」とか、ポビー・ライデルとかポビー・ウィー

などのティーンポップも人気があった。そういうものを経て、イギリスで開花したのがクリフ・リチャード、シャドーズ、ビリー・フューリーなどのイギリスのロックンローラーたち。今度はそれを土台に違う側面から来たのがビートルズやローリング・ストーンズでしたね。やっぱりそういうような存在って、ビートルズがいて礎石があるわけですよ。礎石を意識して聴かないとビートルズの本当の姿は出てこないと思います。聴いていない人にはなかなか難しい修行にあたるけど、ビートルズを超えたいならそれをぜひやって欲しいと思いますね。

♪ 石坂さんが音楽業界に入られて最初に手掛けられたビートルズの『ホワイト・アルバム』はとても思い出深い作品だと思いますが、初めてビートルズを聴く人に薦めるアルバム3枚を挙げてもらえますか？

『アビー・ロード』『ラバー・ソウル』『ハード・デイズ・ナイト』の3枚ですね。『アビー・ロード』は完成度が最も高いアルバム。『ラバー・ソウル』はビートルズが少しややこしい音楽に発展するきっかけになったアルバムですね。プログレのアルバム。『ア・ハード・デイズ・ナイト』はビートルズのありのままの姿をとらえているアルバムです。

♪ ビートルズの息子たち、それぞれのメンバーの2世たちが音楽活動をしています。石坂さんは彼らをどう思われていますか？

みんな親父が全体的に優れているか、天才がいたバンドにいたから優れていたのか。いずれにしろ、親父を越すことは難しいですよ。父と子とか、母と子とか、私はそういうのは否定的なんです。音楽の才能でいくなら分かるけど、父と子の関係でいくようなことはどうだろうと。ですから、彼らに関しての質問にはいつも疑惑が入っています。

♪ 今年に入ってからデヴィッド・ボウイ、プリンスなど、大物アーティストの訃報が多いですが、特にデヴィッド・ボウイについて特別な思いはありますか？

1971年頃にボウイの人氣がイギリスで爆発して、「ジギー・スターダスト」とかいろんな歌が当たった。それで、Tレックスと一緒にデヴィッド・ボウイはグラムロックの中心になった。Tレックスは僕が担当していたんだけど、マーク・ボランもデヴィッド・ボウイもこの世のものとは思えない艶やかさがありましたね。マーク・ボランは1977年に死んじゃって、デヴィッド・ボウイは今年の1月に亡くなって、寿命といえば寿命なんだけど、残念なことですね。やっぱり従来ある音楽をやりながら、それがブームになっていくというのは大変なことですよ。

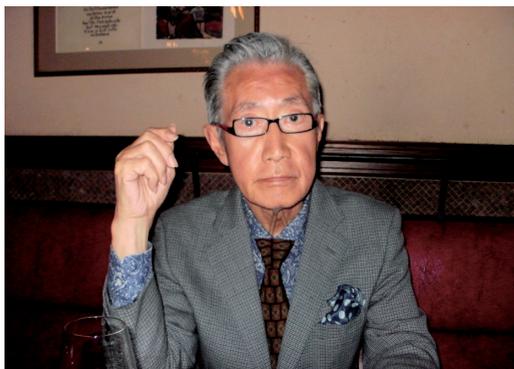
♪ これまでジャズについて語られていたことはあまりなかったと思いますが、石坂さんとジャズの接点について聞かせて下さい。好きなジャズ・ミュージシャンなどいましたか？

ジャズで好きなのはベースのミロスラフ・ヴィトウス。それから、ピアノのセロニアス・モンクかな。セロニアス・モンクはオムニバスの中の曲を聴いているので、アルバムとしては良く知りません。セロニアス・モンクの「セロニアス」っていう曲ありますよね。あの曲はいいなって思いますね。ミロスラフ・ヴィトウスはジャック・ブルースがベースが凄く上手いので、ジャック・ブルースに匹敵するベーシストはいないかなって思っていたらミロスラフ・ヴィトウスがいたんです。

♪ 現在のジャズ・シーンには若くて才能あるアーティストもたくさん出て来ていますが、ジャズが音楽ビジネスとして壁を超えられるチャンスはあるとお考えですか？

ものに寄りますね。最近のジャズは分からないですが、前衛ジャズとかミュージック・コンクレートを中心とするようなアバンギャルドなジャズは絶対に日本じゃ受けないと思う。

♪ ジャズというジャンルの課題、ジャズの未来について



て石坂さんの視点でアドバイスを頂けますか？

例えばジャズの場合、評論家が多い。評論家が力を持ってますね。だから、評論家を頼りにしてやっていると常にこの状況だと思う。レコード会社の人か、あるいはアーティストに興味がある人が1人のアーティストに集中してプロモーションするっていうことはなかなか出来ないですね。それをやるといいです。その方が絶対にいいと思います。

♪ 石坂さんは矢沢永吉さんとの関係も深いですが、石坂さんが感じた矢沢さんの魅力をお聞かせ下さい。

矢沢永吉は外観も魅力的だけど、音楽的に首尾一貫していることですね。バラードであれ、ロックンロールであれ、彼の姿勢は常にロックンロール。ロックが身体に染み付いている。それは内田裕也も同じですね。

♪ 差し支えない範囲で、矢沢さんとのエピソードがあれば聞かせてもらえますか？

1970年代の昔、内田裕也と矢沢永吉が対立的にあって、古い話なので詳しくは覚えていないんだけど、何かの問題で対立して、2人が会うことになったんです。それでその時、僕と村上ガンさん（＝内田裕也さんの元のマネージャー村上元一さん）がレフリー役だったんですが、あれは面白かった。結局、大ごとにはなりませんでしたが。

♪ ちょうど氷室京介さんのライヴ活動からの引退のニュースが流れていますが、BOØWYも石坂さんが担当されましたね。

氷室はBOØWYのリーダーで、BOØWYは日本最初のロックの成功者ですね。氷室とBOØWYはロックの範囲から出たことないです。それは貴重なことだよ。大陸の音楽であるロックが初めて日本の日本人による音楽で当たった。東京ドームでのラストギグで5万5千人集めて3日間ライヴをやるって、氷室は凄いですよ。

♪ BOØWY について再結成を望む声が多かったです
が、再結成についてはどう思われていましたか？

再結成はしない方がいいと思う。あの時代の音楽であり、それを否定出来ない。クリームも再結成しない方がいいと言っていたら、ジャック・ブルースが死んじやったから。ビートルズも再結成はなかったですから。

♪ これまで何か楽器は弾かれていたのですか？

バンドを作っている時にベースをやっていました。社会人になっても弾いていたけど、ほんのちょっとです。楽器はフェンダーのジャズ・ベース。ジャック・ブルースの影響よりもベンチャーズの影響で始めたんです。

♪ 石坂さんがベースを弾かれている音源は残されていないのですか？

加山雄三の「旅人よ」というレコードでバックに僕のコーラスが入っています。ベースも弾いたんだけど、プロに代えられた(笑)。ベースはまだ家にあります。名前は忘れてしまいましたが、日本人のベーシストに譲り受けた楽器です。ギターもちょっと弾いていましたね。ギターはクロード・チアリの「夜霧のしのび逢い」の影響からでした。

♪ お気に入りのベーシストを3人挙げるとすると誰になりますか？

ジャック・ブルース、ジョン・ポール・ジョーンズ、それから、ポール・マッカートニー。アルバムでよく聴いたのはジャック・ブルース、クリームですね。クリームの『ホイールズ・オブ・ファイア』というアルバムです。あと、レッド・ツェッペリン。ツェッペリンは2枚目の『レッド・ツェッペリン II』。

♪ 最近聴いている音楽は何ですか？

ジミ・ヘンドリックス、レッド・ツェッペリン、ディー・パープルなどのハード・ドライヴィングな音楽を聴いています。日本のアーティストではブルース・クリエイション、クリエイション、あるいはファー・イースト・ファミリー・バンドなどを聴きますね。

♪ 石坂さんにとって思い出深いアルバムを3枚挙げてもらえますか？

クリームの『ホイールズ・オブ・ファイア』、レッド・ツェッペリンの『レッド・ツェッペリン II』、あと、ピンク・フロイドの『原子心母』(*このアルバムは石坂さんが手掛け、日本語のタイトルも石坂さんが命名)。

♪ 昨今、デジタル配信などの勢いが凄いです、デ

ジタル配信についてどう思われますか？

僕は音楽に関して、デジタルは反対なんです。音楽は手間暇掛けて聴くものであって、歌詞カードも評論もないですからね。

♪ 本誌のようなジャズの音楽雑誌というメディアの今後のあるべき姿について聞かせてもらえますか？

編集部の方針が強い雑誌が必要だと思いますね。例えば、アーティストを育てたいと本当にそう思うなら、それをやるべきです。月毎、季刊毎に出す雑誌にいつも特集が載っていると。それは評論家がいるとそうならない。ジャズはそういうような音楽だと思うんですね。

♪ 石坂さんが注目している若手アーティストはいますか？

声がいいのは川島ケイジ。ジョニー・マティスみたいな円熟した歌手になって欲しいですね。9月頃にメジャーデビューすることになっていますが、アルバムにもカヴァー曲を入れたり、ヨーロッパの映画の主題歌などを歌うといいですね。彼の声は本当にいい。

♪ 石坂さんがやり残していること、やってみたい事はありますか？

川島ケイジを育てたい。アルバムが常に5万枚売れるようなアーティストにしたいです。

♪ 最後に石坂さんにとって音楽とはなんですか？

私にとっては仕事であり、趣味であり、世の中を見るフィルターですね。

【石坂敬一プロフィール】

1945(昭和20)年8月25日生まれ。慶應義塾大学経済学部卒。1968年東芝音楽工業(現・EMIミュージック・ジャパン)入社。洋楽・邦楽の両分野で活躍し、ビートルズ、ピンク・フロイド、レノン&ヨーコ、Tレックス、エルトン・ジョン、ジェフ・ベック、矢沢永吉、クリエイション、松任谷由美、長渕剛、BOØWY等を担当。1994年にヘッドハンティングにより日本ポリグラム(現ユニバーサルミュージック)へ代表取締役社長として移籍。1998年ユニバーサルミュージック代表取締役社長、2001年同社代表取締役社長兼CEO、2006年同社代表取締役会長兼CEO、2009年同社最高経営責任者兼会長、2010年同社相談役を歴任。2011年ユニバーサルミュージック相談役を退任し、ワーナーミュージック・ジャパン代表取締役会長兼CEOに就任。2014年より同社取締役名誉会長に就任。その他、2007年から2011年まで日本レコード協会会長を務める。2009年藍綬褒章、2015年旭日中綬章受章。現在に至る。

石坂敬一さんがインタビューで語ってくれた思い出のアルバム！



ハード・ディスク・ナイト ザ・ビートルズ

(ユニバーサル・ミュージック：TYCP-60003)

石坂さんが「ビートルズのありのままの姿をとらえている」と語ったビートルズの3作目。【1964年録音】



ラバー・ソウル ザ・ビートルズ

(ユニバーサル・ミュージック：TYCP-60006)

石坂さんが「プログレのアルバム」と語ったビートルズの6作目のオリジナルアルバム。【1965年録音】



アビー・ロード ザ・ビートルズ

(ユニバーサル・ミュージック：TYCP-60013)

石坂さんが「完成度が最も高いアルバム」と語ったビートルズの12作目のアルバム。【1969年録音】



クリームの素晴らしい世界 クリーム

(ユニバーサル・ミュージック：UICY-20017)

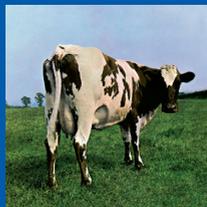
石坂さんが思い出深いアルバムとして挙げたクリームの3作目&2枚組アルバム。【1967-1968録音】



レッド・ツェッペリン II レッド・ツェッペリン

(ワーナー・ミュージック：WPCR-15688)

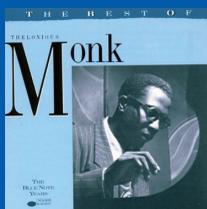
石坂さんが思い出深いアルバムとして挙げたレッド・ツェッペリンの2作目のアルバム。【1969年録音】



原子心母 ピンク・フロイド

(ワーナー・ミュージック：WPCR-80124)

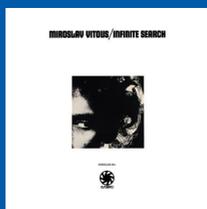
石坂さんが思い出深いアルバムとして挙げ、邦題を命名したピンク・フロイドの5作目。【1970年録音】



ベスト・オブ・セロニアス・モンク セロニアス・モンク

(Blue Note Records) 【現在取扱なし】

石坂さんお気に入りの曲「セロニアス」が1曲目を飾っているセロニアス・モンクのオムニバス盤。



限りなき探究 ミロスラフ・ヴィトウス

(ワーナー・ミュージック：WPCR-25038)

石坂さんお気に入りのジャズ・ベーシスト、ミロスラフ・ヴィトウスの初リーダー作。【1969年録音】

お薦めの石坂敬一さんの著書！

究極のビジネスマンになる方法 出世の流儀

ユニバーサル・ミュージック出版
石坂敬一



出世の流儀

究極のビジネスマンになる方法

著者 石坂敬一

サラリーマンであることに誇りが生まれる石坂流仕事術の極意！！
第1章 現場こそが最高の教科書
第2章 情報をいかに翻訳するか
第3章 デキるビジネスマンのものの考え方
第4章 会社人生を楽しむ

多くのトップアーティストを売り出し、ユニバーサル・ミュージックの躍進を導いた音楽業界伝説のディレクター／経営者 石坂敬一、初の語り下ろし著書。“サラリーマン”としての仕事人生に誇りを持つ生き方を指南。 【日本文芸社／2011年発行】

石坂敬一さん注目のアーティスト！

川島ケイジ

Keiji Kawashima



2016年
6月17日(金)
Open18:00/Start19:30

【主催】BLUES ALLEY JAPAN 【後援】UNIVERSAL MUSIC JAPAN / (株)クリームインターナショナル

【チケット】
■指定アーチェン席 ¥9000
(税込 ¥9540)
■前アライメント席 ¥41500
(税込 ¥43470)
■当日アライメント席 ¥4600
(税込 ¥48180)
※別途送料
それぞれ ¥500 up

【チケット予約】
03-5749-8277
電話 03-5749-8041
(月-土 12:00-20:00)
申し込み
下のQRコードから



和歌山県出身のシンガーソングライター。ロックを基本に歌心を大切にしたヴォーカルスタイルは老若男女を魅了して止まない。クリームインターナショナル所属。 <http://www.keiji-kawashima.com>